資料3-1

ビューランダ小学校　リントン校長の授業

「みなさんが美しいものと思うものは何ですか？」

授業者　ビューランダ小学校校長

対象　　第5学年

日時　　2003年10月22日　5時限目

場所　　松原市立A小学校

通訳　　A小学校ALT

T：ビューランダ小学校校長

C：児童

児童は、円形に並べられた椅子に自由に座る。

T：始める前に、この授業に関する注意事項を言います。

* みんなそれぞれ、いろいろな意見があります。お互いの意見をしっかりと聞きましょう。
* 意見を言うときは、きちんと理由をつけましょう。
* 友だちの言った意見をもとに、より深く考えましょう。
* 正解（決まった答え）はありません。

　今日みんなで話をするのは、「美しいもの」についてです。私は日本にきて、たくさんの美しいものを見ました。たとえば、大阪城、みなさんが作ってくれた折り紙のつる、日本の友人からもらったショールなどです。

　みなさんが「美しい」と思うものはなんですか？

C：（沈黙）

T：緊張しないでね。

C1：海が光っているところ。

T：そうね、海はとても美しいわね。

C2：空。

T：特に青空が見える日は素晴らしいわね。

C3：自然。

T：とても素晴らしい答えね。

T：近くにいる人と、美しいと思うものについて話してください。

（2分ほどの時間をとる）

T：では、次に美しくないものについて隣同士で話してください。

（2分ほど時間をとる）

T：美しくないと思うものは、どんなものですか？

（児童の手が勢いよく上がり始める）

C4：ごみ。

C5：人の悪い心。

T：これからみんなで「美しい」ということ、「美しくない」ということについて考えましょう。

（床に「美しい」と「美しくない」というカードを置く。2枚のカードの間にラインを引く）

（真っ黒な漆の箱を皆に見せる）

T：これは美しいですか？　それとも美しくないですか？（この後、TはCが言う「美しい」「美しくない」のそれぞれの理由を板書していく）

C：（沈黙）

T：美しいと思う人は手をあげて下さい。

（誰も手をあげない）

T：美しくないと思う人は手をあげて下さい。

（ほとんどの児童が手をあげる）

T：では、この箱は「美しい」か「美しくない」のどちらにおけばいいですか？　それとも分からないから「真ん中」ですか。

C6：美しくない方に置く。

C7：真ん中に置く。

T：では、これを見て下さい。

（違う包を開く。すると、外側がキラキラ光った箱が出てくる）

T：この箱は美しいと思いますか。

C8：美しいと思います。

T：そう思うのはどうしてですか？

C8：キラキラ光っているから。

C9：飾りがたくさんついているから美しい。

T：では、これを見て下さい。

（初めに出した真っ黒な漆の箱を開ける。すると箱の内側はキラキラ光っている）

T：この箱を今でも「美しくない」と思いますか？

C9：美しいと思います。（美しいという場所に置く）

T：なぜ「美しい」とうい場所に置いたのですか？

C9：外が美しくなくても、中が美しいものはあるから。

T：この箱のように、外は美しくないけれど、中は美しいというものは、他にもありますか？

C5：さなぎが蝶から出てくる。

T：とっても素晴らしい答えですね。

　逆に、外は美しくても、中は美しくないものはありますか？

C：（沈黙）

T：ではこれを見て下さい。

（児童が「美しい」と考えた、外側がキラキラ光った箱を開ける。すると箱の内側は真っ黒だった）

　外側が真っ黒な箱と、外側がキラキラ光った箱、どちらも「美しい」というところに置いていいですか？

C2：（内側が真っ黒な箱を「美しくない」というところに移動させる）

C6：（先ほどの箱を「美しい」というところに移動させる）

T：どうしてそこに移動させたのですか？

C6：中はあまり美しくないけど、外は美しいから。

T：自分なりに考えて、「美しい」というところでいいと思った人は手をあげてください。

（Cの半数程度が手をあげる）

T：では次にこれを見て下さい。

（オーストラリアに棲息する色鮮やかなカエルの写真を見せる）

　これは美しいと思いますか？　どう思いますか？　自分の思ったところに写真を置いてください。ただし、どうしてそこに写真を置いたのか理由を言って下さいね。

C10：「きれいな色だから」という理由で「美しい」に置く。

T：同じように「美しい」と思う人は手をあげてください。

（5人のCが手をあげる）

T：ではこれとは違う意見の人は手をあげてください。

（7人のCが手をあげる）

C11：「色が汚い」という理由で「美しくない」というところに置く。

T：これでいいと思った人は手をあげてください。

（さきほどの7人のCが手をあげる）

T：真ん中の「どちらかわからない」というところに置いたほうがいいと思う人は手をあげてください。

（4人のCが手をあげる）

T：では、これはどうですか？

（巨大な茶色のヘビの写真を見せる）

C4：「色が汚い」という理由で「美しくない」というところに置く。

T：この写真のヘビが「美しくない」というところでいいと思う人は手をあげてください。

（約半数のCが手をあげる）

C11：「色はきれいけど、気持ち悪いから」という理由で「美しくない」

T：では違う場所に置いたほうがいいと思う人はいますか？

（3人のCが手をあげる）

C6：「色がきれいだから」という理由で「美しい」というところに置く。

T：これとは同じ意見の人は手をあげてください。

（3人のCが手をあげる）

T：いろいろな意見が出ましたね。では次にこれを見てください。どう思いますか？

（白いでディベアの写真を見せる）

C12：「かわいい」という理由で「美しい」というところに置く。

T：「美しい」は「かわいい」とも言えるかな？　同じ意見の人は手をあげてください。

（半数以上のCが手をあげる）

T：違う意見の人は手をあげてください。

C12：「「美しい」と「かわいい」は少し違う」という理由で真ん中の「どちらといえない」というところに置く。

T：この写真が「美しくない」と思う人は、手をあげてください。

（だれも手をあげない）

T：次の写真を見てみましょう。

（色鮮やかなマントヒヒの写真を見せる。Cから笑い声が起こる）

T：みんな笑っているけれど、これは「美しい」と思いますか？

C12：「気持ち悪いから」という理由で「美しくない」というところに置く。

T：ここでいいと思う人は手をあげて。

（だれも手をあげない）

T：「気持ち悪い」という理由で「美しくない」というところに置いいですか？　違う意見の人は手をあげてください。

C13：「かっこいい」という理由で「美しい」というところに置く。

（Cたちからは、どよめきが起こる）

T：この意見と同じ人は手をあげてください。

（3人のCが手をあげる）

T：「美しくない」と思う人は、手をあげてください。

（4人のCが手をあげる）

T：では「どちらともいえない」というところに置いたほうがいいと思う人は手をあげてください。

（Cの大半が手をあげる）

T：これから写真を配ります。隣の人とペアになって相談して、「美しい」か「美しくない」かを決めてください。これまでの意見では、みなさんは色やかわいさで「美しい」か「美しくない」かを決めていましたね。どこに置けばいいか、そして、どうしてそこに置くのか理由も考えてね。お互いの意見をきちんと聞きましょう。

　では、周りから見えないように写真を裏返して下に置いてください。端のペアから順番に、その写真をどこに置くか決めたほうに置いてください。理由もきちんと言って下さい。

（順番に、みんな写真を見せながら決めた場所に置き、理由を述べる。Tは、それぞれの理由に対して「よく考えたね」などと肯定していく）

T：「美しい」と思ったものはたくさんありますね。「美しくない」と思ったものは少ないですね。「わからない」と思ったものもいくつかありますね。初めに「美しい」や「美しくない」と思ったものに対して、自分なりにどう考えが変わりましたか？

C：（沈黙）

T：では、この授業の中でお互いの意見を聞けましたか？

（ほぼ全員のCが手をあげる）

T：自分なりに「美しいもの」や「美しくないもの」について考えることができましたか？

（3人のCが手をあげる）

T：今日、みなさんは他の人の意見を聞きながら、とても深い考えができていました。　今日の授業について聞きたいことや、何か意見はありますか？

C12：てつがくは初めてで、こういうことをするんだなと思った。

C5：ひとそれぞれ「美しいもの」や「美しくないもの」について考えが違うんだなあと思った。

C6：人の考えはみんな違うんだなあと思った。

T：今日の授業の目的はそれだったのです。そのことをみんなに知ってほしかったのです。

C13：わかりやすかった。

C8：人間の心は美しいということがわかってよかった。

T：ビューランダ小学校でもこのような授業をしているけど、みんなは初めてなのによくがんばりました。

（竹内裕美「小学校教育における「子どものための哲学教育」の可能性」大阪教育大学小学校教員養成課程総合認識教育専攻、平成17年度桝形ゼミ卒業論文集、96-105頁より、適宜改定をして抜粋）

**オーストラリア　ビューランダ小学校**

１年から６年までのすべての学級が週に１時間　「哲学」を学ぶ　２０人に２人の教員

大学研究者と一緒に教材を開発する　小学校教員組合で研修を実施

**オーストラリアのビューランダ小学校のカリキュラム。**

１・２・３年生、準備学級で話し合われるテーマや概念（ビューランダ小学校の例）

自己、自分　　　　　　　　　　　　　　アイデンティティ、わたしはだれか？

所属「わたしは・・・の一員です」　　　家族

仲間、近所の人、集団、地域　　　　　　文化

人を思いやること　　　　　　　　　　　自分や他人を尊重すること

同じことと違うこと　　　　　　　　　　責任

善いことと違うこと　　　　　　　　　　持続可能性（環境に関すること）

４・５・６年生、中学生

自分　　　善悪、倫理　　　アイデンティティ、私は誰？　美しいってどんなこと？

文化　　　変わること　　　からだ　　　　　　　　　　働くということ

　　尊重、尊敬すること　　　　歴史　　　　　　　　　　　人を思いやること

　　時間について　　　　　　　責任　　　　　　　　　　　違い

　　価値　　　何のために？（目的）　　　　　　　　　　　協力すること

　　知るってどういうこと？　　勇気　　　　　　　　　　（知識）

考えるスキル（技）の例

　　準備学級　・聞く/理由を言う/問う/述べる　　　４年生　・べつの可能性を考える

　　１年生　　・例をあげる　　　　　　　　　　　　　　　・区別する

　　　　　　　・他人の意見について考える　　　　　　　　・アナロジー（類推）

　　　　　　　・振り返る　　　　　　　　　　　　　　　　・類推と相違

　　２年生　　・問いをまとめる　　　　　　　　　５年生　・前提を探す

・何、なぜを問う　　　　　　　　　　　　　・誤った推論を見つける

・はい/いいえを問う　　　　　　　　　　　　・アナロジーを検証する

・説明する　　　　　　　　　　　　　　　　・関連づける

３年生　　・違ったみかたをする　　　　　　　６年生　・仮説を立てる

　　　　　　　・基準をあげる　　　　　　　　　　　　　　・議論の進み方を評価する

　　　　　　　・定義する　　　　　　　　　　　　　　　　・推論する

　　　　　　　・判例をあげる